

talk! talk! talk! タレント・篠原ともえさん



タレント 篠原ともえさん

テレビの中に突如現れたウルトラ級に明るくハイテンションな女の子。
“シノラー”の愛称ですぐに人気者になった彼女はいつでも元気いっぱいに飛び回っていた。
あれから少し大人になった今、タレント・篠原ともえさんにその頃の話やうかがうと、夢が叶ってうれしくてしかたなかったのだという。
これからたくさん経験を積み、歌手として女優として、またデザイナーとして様々な自分を表現していきたいという篠原さん。
撮るのも撮られるのも大好きという写真についての話とともに、常に表現し続けるそのパワーの秘密をさぐった。

プロフィール

しのはら・ともえ。1979年、東京都生まれ。オーディションをきっかけに1995年『チャイム』で歌手デビュー。1996年発売の『クルクルミラクル』がヒットし、篠原さんの元気なキャラクターやカラフルでかわいいビジュアルが話題となり、シノラーの愛称で人気者に。その後、自らも作詞作曲をしながら定期的に楽曲を発表、ユースケ・サンタマリアさんや宇崎竜童さんとデュオを組んだり台湾でもデビューを果たすなど、粋にとらわれず活動の幅を広げる。2004年1月には松本英子さんとのデュオ“ZuTTO”を結成、『明日に続く空』を発売。

バラエティー番組への出演も多く、これまでに『LOVE・LOVE愛してる』（フジテレビ系）など数多くの番組に出演。女優としては1997年、ドラマ『FIVE』（日本テレビ系）で本格デビュー後、多くのドラマで活躍。また、デザインや物作りが好きで、衣装やCDジャケットを制作したり、さらにファッションショー、衣装・音楽をプロデュースした舞台公演などを行っている。現在は舞台の活動も精力的に行っており、2000年に初舞台を踏んでから『ありがとうサボテン先生』、『ファウスト』、ミュージカル『ピッピー』など様々な役柄にチャレンジしている。2004年12月13日からは後藤ひろひと作・演出『スプーキー・ハウス』に出演する。

学生服にカメラをぶら下げて 写真を撮り続けた高校時代

写真を撮るようになったのはいつ頃からですか？

すごくハマったのは高校生のときです。高校で天文部に入っていたんですけど、星を観察するだけじゃなくて、星の写真を撮るってことをして。それで、夜は星を見るけど、昼間に活動することがないから、じゃあカメラの撮り方を覚えようって一眼レフを1人1台渡されたんです。それで昼間に写真を撮りに行って、それを文化祭で展示したりしていました。

写真部も兼ねているような感じですね。

そう、ほんとに写真部みたい。だって暗室使って自分たちで焼いたりもしていましたから。高校ではデザイン科に通っていたんです。だから学校に暗室があってカメラの授業もあったりいる習ったんですよ。たとえばピーマンやオレンジをいかにおいしそうに撮るかっていうので、油を塗ったりスプレーかけたり、並べ方や照明を考えたりして撮影しました。そのときはなんでこんなことしているんだろうって思ってたけど、今思うとすごく本格的な授業をやったのかも。

それで技術を学んで。

そうですね。カメラはいつも持ち歩いてました。重いカメラ（一眼レフカメラ）を首からぶら下げている自分、かっこいいなって思ってたし.....あの頃カメラを持ち歩くのが流行っていたんですよ。“カメラ”っていうの（笑）？ 学生服にカメラを下げて、よく街の中とか学校とか歩き回っていましたよ。

どんなものを撮っていたんですか？

カラフルなものとか、街の風景とか、友だち同士でも撮りあったりしていましたよ。あと、空がきれいって思って撮っていたらそれだけでフィルム1本使ってとか、自分の楽しい顔とか悲しい顔も撮ってましたね。そう、男の子にフラれた時に今の顔を写真に撮っておかなぎやって、自分へカメラを向けて撮ったこともあります（笑）。自分では笑ってるつもりなんだけどすごくひきつった顔しているの。きっと失恋も笑いに変えようという思いを込めて撮ったんだと思うんですけどね。とにかくやたらと撮ってました。だから高校生のときに写した写真ってすごくたくさんあるんです。人生の中で、もうこんなに撮ることはないってぐらい撮りました。



撮った写真はアルバムに整理 お手製のファッション雑誌の出来上がり

今も頻繁に写真を撮っているんですか？

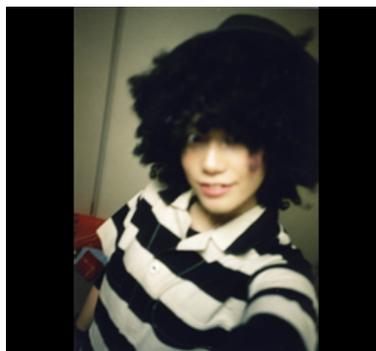
撮ります、今もすごく撮りますよ。最近はめっきり人が多ですけどね。

舞台をやっていたときも、楽屋に来ていただいた方と一緒に撮って楽屋7鏡の横にバーって貼るんです。これだけの方が応援してくれているんだわ！ って思いながら舞台をやって、舞台が終わったら舞台の思い出として全部まとめて一冊のアルバムにするんです。これは舞台を始めてからずっとやっていること。

最近はそうやってアルバムを作るのがすごく楽しいんです。写真箱っていうのを作っていて、撮った写真をどんどんそこに入れていく。あとで、これはアップのともえ、誰かと写っているとえ、洋服のともえ、とかジャンルごとに分けて、アルバムにまとめて貼るんです。

“洋服のともえ”っていうのは？

洋服を買ったら家でファッションショーをするんです。これと、これを合わせて着てみる。で、ファッションショーしながらセルフマイマーでカシャカシャ自分を撮って、それを写真箱に入れておくの。



これは、パーティの時に「アフロにどるぼう」ファッションをした記念にパチリ。

たまったらスポーティーな感じ、とか見やすく分けてアルバムにして
おくと、オリジナルのモード雑誌みたいになって面白いんですよ。

その写真を見て洋服を選ぶときの参考にするんですか？

いや、一度着ればそれを覚えているから、洋服を選ぶときに見たりは
しないですよ。これは多分、純粋に私のお楽しみなんです。好きな音
楽かけながら鏡の前で、ポーズしたり、何か手に持ったりして撮るの
(笑)。すごく楽しいですよ。あとで見直してみると、ちょっとずつ
自分の感じが変わってたりするのもおもしろいんです。自分を撮る
の大好きですもん。あと、人に撮られるのも好きです。

自分で自分を撮るのはお手のもの！！



2004年10月の撮影で山梨のコスモス畑に行きました☆
花を撮るのは大好き！

撮って撮られてプレゼントして 写真は大事なコミュニケーションツール

自然な姿とか普段の顔というのは、ポーズを取ったり構えたりしていない表情
ということですか？

そうです。話しているときにふっとみせる表情とか.....そう言えば私、高校生の
頃、授業中に友だちの写真を撮っていたことがある。気づかれないように友だ
ちを撮って、現像して「はい」ってあげるの。いろんな人にそれやっていた気
がします。勉強しなさいって感じですよねえ(笑)。

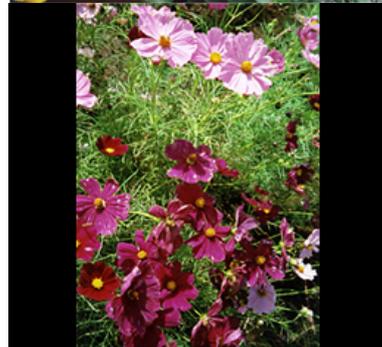
先生にも気づかれないように撮らないと(笑)。

そうそう、机の上にカメラ置いて撮って。でも、あげたら絶対に大切にすると
思うんですよ。ポーズを取ったりしていない普段の自分の姿が写っている写真
ってみんなあんまり持ってないでしょう？ だからあなたの姿はこんなのです
よってこっそり撮ってあげるんです。

写真をパソコンに取り込んで加工するのに凝っていたときは、人の顔をいじ
ったりしていました。気持ち悪いー！ って言いながら目をぐにーって離したり
とか(笑)。喜ぶと思ってそれをプリントしてあげたりもしていましたよ。だ
いたい「何だこれ、ひどい！！」って怒られましたけど。

撮るのも、撮られるのも、それからプレゼントするのも好きなんですわね。

そう、えへへ。高校生のときにそうやってさんざんフィルムを使って勉強した
のが、今すごく活かされていると思うんです。アングルとか基本的なことは先
生に教えてもらったから、みんなで記念写真を撮るときも「この位置でこう
撮って」って指示しちゃったりするし。それから、授業中の練習の成果かどう
かはわからないですけど、その人の表情を素敵に撮る自信はちょっとあるん
ですよ、普通の人よりも。



晴れる日は、カメラを持って散歩することも。
近所のお花をパチリ！

つまらないことも全部忘れたくない その気持ちを写真にたくして撮る

篠原さんは写真のどんなところにおもしろさを感じたのですか？

写真を撮って、そこからどんどんもの作りにつながっていくのがおもしろい。
たとえば写真をアイロンプリントしてTシャツにしたり、ポ
ストカードを作ったり。写真っていろいろなものに応用できるじゃない
ですか。もの作りが幅が出るっていうか、すごく可能性を感じた
んですよ。それが写真にハマった理由かもしれない。

あとは、今はいろいろなものがあるけど、一番身近にある、パッと手
に取って見られる振返るための手段だと思う。

昔を？

そうそう。写真はそのときをそのまま写して残してくれるから、撮
たときに感じていたことや思っていたことっていうのも残っていて。
こうだと思ってたけど、本当はこうだったんだって思い出せるか
ら、写真は嘘をつかないっていうか、本当の自分を思い出せるとい
うか.....そうやって昔のこと思い出せるっていうのはすごく素敵なことだ
なあと思います。

だから逆に、忘れたくないからたくさん写真を撮っているんだと思うんです。
高校生のときの写真がいっぱいあるのって、あの頃は全てが楽しかったから、
全て忘れたくないっていう気持ちが写真にたくされていたんだと思う。周
りの景色もお弁当も黒板も、いろいろものを絶えず撮っていたから。

そうやって撮っておいてよかったと思いますか？

よかったと思います。あのとき撮っておけばなんてあとで思いたくないし。

お弁当とか、何を撮っているの？ っていうものもあるんだけど、そのときは
お弁当に感動して撮っていたはずだから、きっとつまらないことにもい
っぱい魅力があるんです。そういうつまらないことって忘れてしまっ
てしまっけど、それを撮っておいたから今思い出せるでしょ。それが
すごい、自分に感謝っていうか、えらい、えらいなって感じですよ。



雨のお台場。レンズに雫がついてとてもロマンチックでしょ？

いつでも明るく楽しく元気！ 悩むことだって楽しめちゃう!?

芸能界に入るきっかけはなんだったのですか？

この世界に入るのは小さい頃からの夢だったんです。それで中3のときに歌を唄いた
って思ってオーディションを受けたのがきっかけですね。

だから、デビューしたときは夢が叶った！ってうれしくて騒がずにはいられな
かった。テレビに出ているんだから楽しいことしな
いともったいないって思って、キーッ！むふー！って言っていたんです(笑)。
見ている人はびっくりしたみたいなんですけど.....私にとっては普通だ
ったから、なんでそんなにびっくりするの？みんなの方がおかしいよ！
って思っていました。

本当に元気いっぱいテレビに登場したので、たしかに少しびっくりしましたね(笑)。

私、元々はすごく内気で大人しい子だったんですよ。でも小学生のときにパ
レエを習い始めて拍手をもらったときに、みんなが
あつたを見て喜んでくれるっていう勘違いをしたの。その勘違いからど
んどんこう、騒がしい子になっていった。デビューのときは、私を見て！
っていう状態だったから本当に嬉しくてしょうがなかったんですよ。
かわいくて大好きな洋服を着ることができて、それを見てくれる人が
たくさんいるのがすごく嬉しい！キヤーって(笑)！

デビュー当時から今も、いつでも本当に明るくて元気ですよ。そのパ
ワーというのはどこから湧いてくるんですか？

.....よく聞かれるんですけど、わからないんです。ハイテンションなのは作ってるんじゃないの？とか言われるんですけど、これが素の状態だから。元氣じゃないでいる方が難しくないですか？

たとえば、落ち込んだり悩んだりすることは？

悩むことはあるけど、あまり落ち込みません。

私は悩むことって楽しいことだと思うんです。悩むことで絶対見えてくることがあるし、成長しているって感じられるから。あー、今悩んでる。でもこれはきっといつか自分の成長につながるんだと思うと、とことん悩んでみようじゃないのって感じ。そのときに見たものや感じたものってすごく吸収できると思うし、「悩む私って人間らしくて素敵じゃない」とか自分に酔っちゃったりできるし（笑）。だからむしろ、悩みカモヘンみたいな（笑）。だめです、悩んでも落ち込んだりだめなんです！

好きなことをどんどんやっていきたい 目指すは歌って踊れるデザイナー！

今は歌手としてだけでなく、バラエティーの仕事、女優やデザイナーなどいろいろな活動をしていますよね。

デザインするのも歌を唄うのも好きだし、テレビでワーツと騒ぐのも舞台でお芝居するのも喜びだし。ひとつに絞れないのが困ったところなのかもしれないけれど、今は絞ったり選んだりしないで自分の好きなことをどんどんやっていこうって思っているんです。それをたくさんの人に見てもらえることがなよりの喜び。

自分を表現できるものであれば、ジャンルを問わず。

そうそう。それから舞台やライブをやると、見た人が喜んでくれて元気をもらったって言ってくれるんです。今日あったことを家に帰って話すことで、またみんなが楽しい雰囲気になったとか。これからもそういうふうに思ってくれたら本当に嬉しいですよ。だから、これからもずっと、大勢の人に見てもらえるところで表現をしていきたいなって思いますね。

表現していくうえで気をつけていることはありますか？

見ている人に自信を持って、私のありのままをみせたいです。人を喜ばせたいという気持ちは考えなくても常に持っているから、自分が自分であることをちゃんと見せようって思う。だから、自分がやりたいことはやりたいって言うし、そのためにもなりたいた自分になる努力はどんどんしていかないとっていう感じです。

今やりたいことはあるのですか？

今はね、舞台が楽しいんです！舞台は声や体全体で自分を表現するでしょう。たとえば絵だったら消しゴムで消したりやり直しがきくし、歌だったら機械で声を変えたりできる。でも舞台は普段の努力がいかに出せるかっていうその場勝負のものでよね。今まではそれが怖いとか苦手とか、わりとさけて来た部分だった。でも大変さも2倍だけ成功したときの喜びはさらにその倍になるからおもしろくて！新しい自分を発見できるし、舞台はハマるよって言われていたんですけど、ほんとハマっちゃいましたね。

だから今は、自分の力をそこで発揮できるようにどんどん自分を鍛えたいんです。歌も好きだけど、演技、お芝居っていうものにもすごく興味が出てきているから、もっと知りたいですね。

自分をどんどん鍛えていって、将来はどんな女性になるんですか？

何だろう.....歌って踊れるデザイナー（笑）！

やっぱりひとつのことに決めたくないから、これからも何でもしていきたいんです。あなたの職業はいったい何なの？器用貧乏になるよって言われても構わない。広く浅く、まあ深いことにこした事はないんですけど、でもちょっとずつでもいろんなことを経験していきたいです。洋服のデザインはおばあちゃんになってもできるからずっと続けられるし、あとは体力の続く限り歌って踊っていきます！



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.